

# 政策評価に資する ロジックモデルの作成方法

政策評価に関する統一研修

平成31年1月22日(火) 14時40分～16時10分

会場: 広島合同庁舎1号館附属棟2階 共用大会議室

武蔵野大学法学部政治学科

准教授 深谷 健

# はじめに

## ■ 今回の課題

- 施策の目的と手段を整理するロジックモデルの作成
- 特に、
  - (1) 目標管理型政策評価に資するロジックモデルを、評価対象となる政策の特性とあわせて考える試論的フレームに基づき、
  - (2) これを、具体的事例に照らして検討する(演習)。

# はじめに

## ■ 本日の構成

- ① はじめに
- ② 政策評価の諸問題
- ③ ロジックモデル
- ④ 政策評価対象とロジックモデル
- ⑤ 評価事例の検討
- ⑥ おわりに

# 政策評価の諸問題

## ■ 評価制度導入の約15年

- 2001年、日本の中央省庁における政策評価制度の導入
  - 米国クリントン政権における政府業績結果法（GPRA）の導入
  - 英国ブレア政権のもとでの「ベスト・バリュース原則」
- Evaluation in Everywhere!

# 政策評価の諸問題

■ 政府の意思決定の質を向上させる可能性

◆ アカウンタビリティ（説明責任）を確保する

◆ 行政改革の促進と行政の効率化

◆ 結果志向

➤ アウトプットから、アウトカム志向へ

# 政策評価の諸問題

## ■ところが・・・

- 長らく、評価の機能不全が指摘されてきたことも、見過ごせない。

# 政策評価の諸問題

## ■ 評価実践の内在的な難しさ

① 評価指標の曖昧さ？ \* 参考: 小野(2018)

➤ 評価をめぐる政治性も問題に...

② 因果関係の特定？

# 政策評価の諸問題

## ■ 目標管理型の政策評価

⇒ 目標の達成度を管理する方向へ

- 国の行政機関(宮内庁を除く計20行政機関)が、  
主要な政策を対象に行う事後評価
- あらかじめ目標を設定し、その実績を測定して、  
目標達成度合いを事後的に評価する方式  
⇒ 政策の見直し・改善に繋げるもの

\* 出典:総務省行政評価局(2015)『目標管理型の政策評価の点検結果』



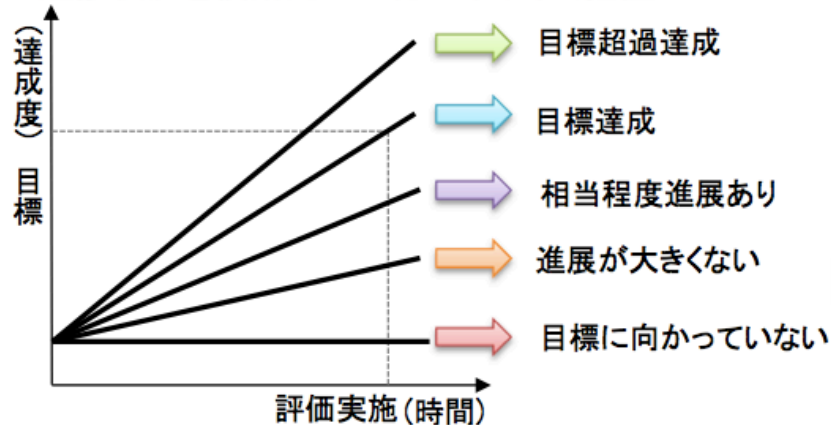
# 政策評価の諸問題

## ➤【標準化・重点化の推進】

- 平成26年度から、「目標管理型の政策評価の実施に関するガイドライン」(平成25年12月20日政策評価各府省連絡会議了承)に基づき、「標準化・重点化」を推進

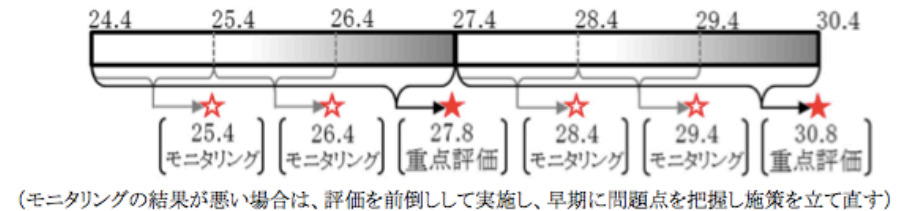
### 評価結果の標準化

目標の達成度合いを各行政機関共通の5区分で明示、施策の進捗状況を横断的かつ分かりやすく把握



### 実施時期の重点化

毎年度評価 → 施策の節目に合わせて評価



### 内容の重点化

目標達成度合いの測定に加え、政策の見直し・改善に貢献するため、目標を達成しなかった原因を分析するなど、踏み込んだ評価を実施

\* 出典: 総務省行政評価局(2015)『目標管理型の政策評価の点検結果』

# 政策評価の諸問題

[表]政策評価の実施件数(平成26年度)

行政機関名	件数	行政機関名	件数
内閣府	78	外務省	10
公正取引委員会	1	財務省	31
国家公安委員会・警察庁	18	文部科学省	19
金融庁	20	厚生労働省	14
消費者庁	10	農林水産省	16
復興庁	1	経済産業省	27
総務省	6	環境省	22
公害等調整委員会	3	原子力規制委員会	3
法務省	17		
	計		296

\* 出典:総務省行政評価局(2015)『目標管理型の政策評価の点検結果』

# 政策評価の諸問題

- しかしながら、
  - この目標管理型政策評価の機能が不十分であることも指摘される。
  - 296件中・・・260件が「目標達成」もしくは「相当程度進展あり」。
  - 一方で、「進展が大きくない」とされる施策も27件。
  - さらに、目標に対する実績への道筋は、必ずしも明確ではない。

➤ RQ(Research Question):

では、なぜこれが難しいのか？

# 政策評価の諸問題

## ■ 仮説

➤ 評価対象となる政策特性と評価手法との間にミスマッチが存在しているのではないか？

➤ 参考:「政策評価対象の特性仮説」(原田2016)

⇒ であるとするれば、この対象を個別に検討し、ミスマッチを改善するような試みが、目標管理型政策評価の理論構築・実践・改善に資する可能性。

ロジックモデルそのものについて、  
考えてみる

# ロジックモデル

## ●ロジックモデル (Logic Model) ?

- 個別施策ごとに、投入する行政資源から、行政の活動とその過程、活動によって提供される財・サービス、直接的・最終的な結果に至るまでの論理的なパスを、個別具体的に描いたもの。
- プログラムセオリーとも呼ばれる。

出典：小野(2018)

# ロジックモデル

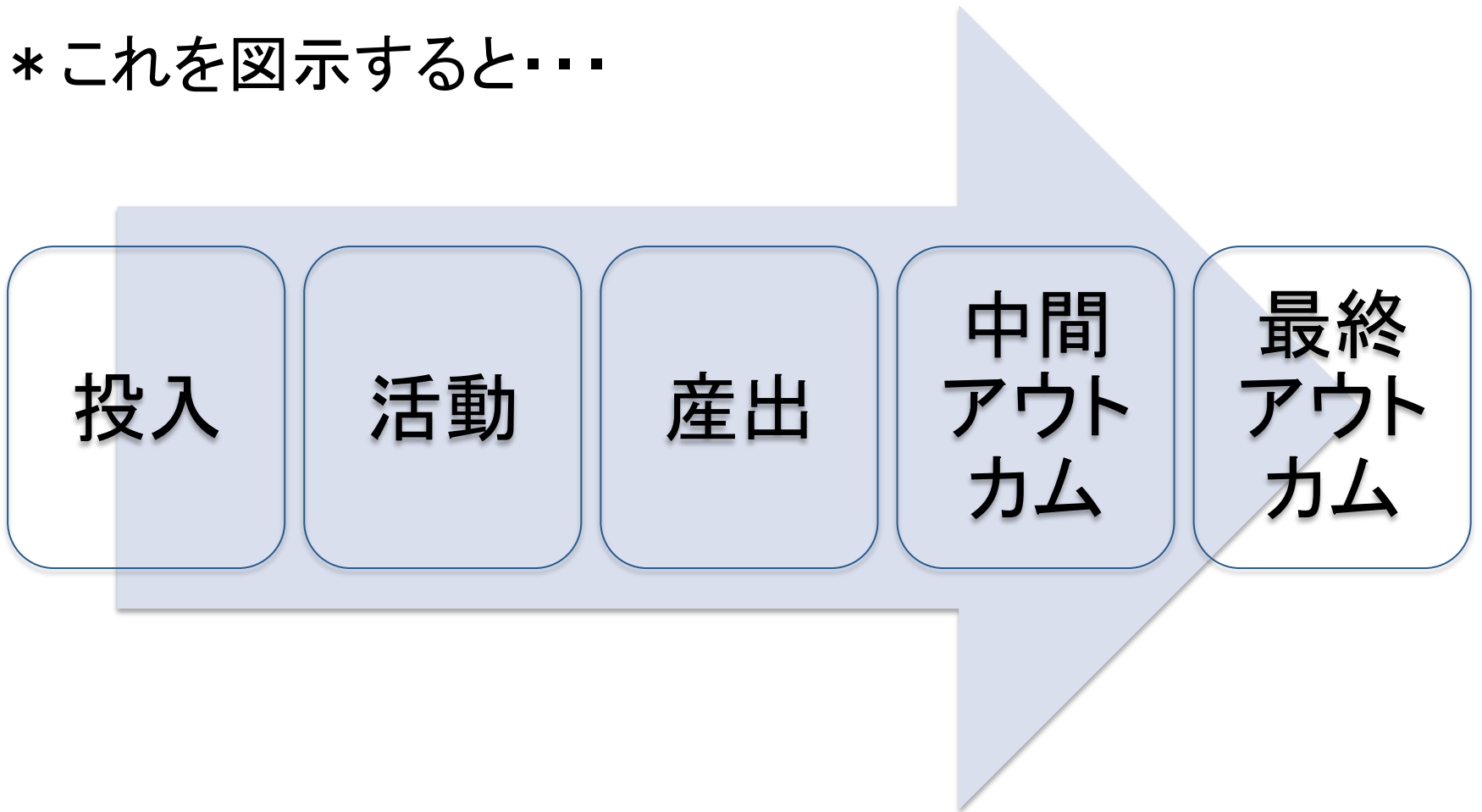
## ■モデルの個別要素

- ① 投入 (Inputs): 政策を実施するために投入される資源
- ② 活動 (Activities): 投入資源をもとに政府が行った活動
- ③ 産出 (Outputs): 投入資源に基づく活動により生じた変化
- ④ 成果 (Outcomes): 産出によって社会にもたらされた結果
  - 中間アウトカム
  - 最終アウトカム



# ロジックモデル

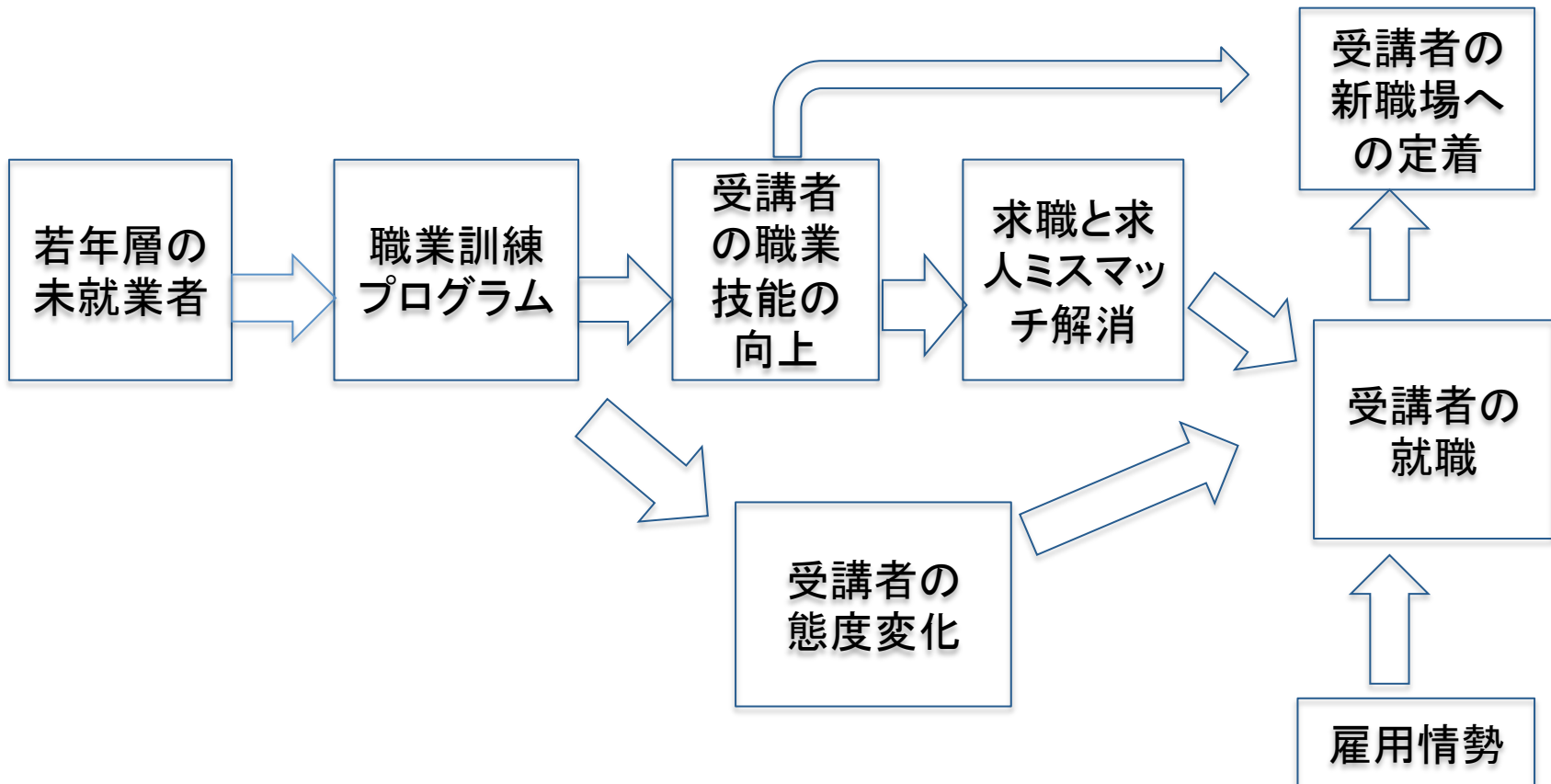
\* これを図示すると・・・



例：政府の「職業訓練プログラム」を  
どのように「評価」したらよいか？

# ロジックモデル

■ 導入したプログラムの結果として評価される「最終アウトカム(就職)」



\* 出典:秋吉・伊藤・北山(2015)

# ロジックモデル

## ■因果関係を考える

➤その3要素？（高根1979）

①原因の時間的先行 ( $X \Rightarrow Y$ )

②共変関係 ( $X \uparrow \Rightarrow Y \uparrow$ )

③他の変数の統制 ( $Z \not\Rightarrow Y$ )

# ロジックモデル

## ■ 因果関係への接近:「実験」の発想とデザイン

➤ 介入群(treatment group)

➤ 対照群(control group)

◆ 介入があった側に変化が生じ、統制した側に変化が生じなければ、そこに因果関係があると考ええる。

➤ ただし、現実社会と実験室実験は異なるため、厳密な実験デザインの設計は、困難を伴う。

# ロジックモデル

## ■無作為化(Randomization)の意義

- 「Aグループ」:  
職業訓練プログラムに参加した若者100人  
⇒その内、60人が就職できた。
- 「Bグループ」:  
職業訓練プログラムに参加しなかった若者100人  
⇒その内、就職できたのは30人のみ。

◆このグループ間の比較により、当該プログラムに効果があったと結論付けてよいのか？

# ロジックモデル

➤ 2つのグループを、**無作為(ランダム)**に抽出する設計の重要性。

⇒他の条件:例えば、性差、年齢、学歴、経験等を同じものとして統制。

⇒「職業訓練」だけが異なるという設計ができれば、それがあるかないか「だけ」の効果を測定可能。

\*「職業訓練プログラム」についての出典:  
秋吉・伊藤・北山(2015);ワイス(2014)

# ロジックモデル

❖ 因果関係の基本的考え方。

❖ ただし、すべてこのレベルでの「厳密な」エビデンスが構築されるわけではないことにも留意しておく必要がある。

⇒いわゆる「エビデンス」にも階層性がある。

\* 例：事象の確認、観察データの記述、変数間の相関関係が示されたもの、因果関係に接近した分析、RCT(ランダム化比較実験)に基づく厳密な因果関係として示されたエビデンスなど…

参考：小野(2018b)



◆さて、政策評価におけるロジックモデルを有効に機能させるためには、あわせて、何を考慮しておくことが役立ちそうか？

# 政策評価対象と ロジックモデル

➤「政策評価対象の特性」を把握する

⇒3つの軸(試論)

①指標の曖昧さを自覚する

⇒定量VS定性

②施策の効果が出るまでの時間軸を考慮する

⇒解決課題それ自体の特性を考える

③全体の政策目的の特性も考慮したほうがよい

⇒評価対象となる政策目的の(マクロ)特性

# 政策評価対象と ロジックモデル

## ① 指標の曖昧さを自覚する

### ➤ 定量VS定性

⇒ 該当政策の目標は、定量的に操作化し測定できるものか、それともこれに馴染まないものか？

# 政策評価対象と ロジックモデル

## ② 評価を「時間軸」で考えることの必要性

### ➤ 解決課題それ自体の特性を考慮する

⇒ 該当政策が目的とする効果を上げるには、評価の時間軸を長期的なスパンで考えた方がよいのか、あるいは短期的に考えることが適切なのか？

# 政策評価対象と ロジックモデル

## ■ 評価アプローチに関する暫定的な類型 ⇒ 2×2の4類型

		目標値の評価	
		操作化可能	操作化困難
評価の時間軸 (政策の効果が出るまでにどれだけ時間がかかるか)	短期的に 定点評価が可能	①短期・定量型 目標管理	②短期・定性型 目標管理型
	持続的評価 の必要性	③長期・定量型 目標管理	④メタ評価的・定性型 目標管理

# 政策評価対象と ロジックモデル

◆加えて・・・

## ③政策評価対象の特性

➤その政策目的は・・・？

- (1)何らかの課題を解決するものなのか
- (2)より前向きに社会を改善するものなのか
- (3)制度全体を管理するものなのか
- (4)あるいは、進捗管理の方が適しているのか

⇒以下、対象の違いを考慮した類型を作成。

# 政策評価対象と ロジックモデル

		評価対象となる政策目的の特性			
		(1) 課題解決型	(2) 社会改善型	(3) 制度管理型(制 度改善を意図)	(4) 維持・進捗管理型 (モニタリング類型)
対象を評価する手段の特性	①短期・定量				
	②短期・定性				
	③長期・定量				
	④長期・定性				

# 政策評価対象特性を考慮した ロジックモデルの構築(演習)



# 評価事例の検討

## ■ 例えば・・・

- 国の各府省による『政策評価の事前分析表（平成26年度・27年度事例）』をもとに、各政策評価対象の特性を検討した上で、そのロジックモデルを考えてみると・・・

# 評価事例の検討

## ■ 演習課題

個別の政策評価対象特性を考慮した上で、ロジックモデルを作成する。

- 以下に挙げられる政策評価事例の中から、ご自身が関心を持つケースを任意に一つ選択し(全てでなくて構いません)、次頁の表の諸点を考慮しつつ、当該政策について個別にロジックモデルを作成してみてください。

# 評価事例の検討

政策評価対象	検討要素
① 政策評価対象特性の種類	<ul style="list-style-type: none"><li>● 政策評価対象特性の種類論への当てはめ<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 当該政策はどのタイプにあてはまりそうか</li><li>➤ 評価の実践か、あるいは、モニタリングが適切か</li></ul></li></ul>
② 問題(問い)	<ul style="list-style-type: none"><li>● 該当政策領域において、何が具体的な「問題」なのか？</li></ul>
③ 原因(仮説)	<ul style="list-style-type: none"><li>● なぜ、そうなのか？</li></ul>
④ ロジックモデル	<ul style="list-style-type: none"><li>● インプットからアウトカムへ至るロジックパスの構築？</li></ul>
⑤ 阻害要因	<ul style="list-style-type: none"><li>● あわせて、そのパスの実現を阻害する要因は何か？</li></ul>

# 評価事例の検討

## ■ 演習課題事例

- 「振り込め詐欺対策」(国家公安委員会・警察庁)
- 「法曹養成制度の充実」(法務省)
- 「国家戦略特区の推進」(内閣府)

# 評価事例の検討

## ■ 演習課題例(続)

- 「電子政府・電子自治体の推進」(総務省)
- 「保育所の受入児童拡大と多様化するニーズ対応」  
(厚生労働省)
- 「政策評価制度の改善」(総務省) 等

\* 出典: 以上の検討事例は、国の各府省による『政策評価の事前分析表(平成26年度・27年度事例)』より抜粋。

# 演習課題1 (例題)

## 「例：振り込め詐欺対策」の事例紹介

- **概要と目的**：振り込め詐欺を始めとする特殊詐欺は、日々巧妙化・多様化し、国民に甚大な被害が生じていることから、この操作活動及び予防活動の強化により、被疑者の早期検挙及び被害の続発防止を諮る。

➤ 例：

	年度	H22	H26	H27
特殊詐欺の認知件数及び被害総額を減少させる。	認知件数(件)	6,540	12,388	↓?
	被害総額(億円)	120.9	526.7	↓?
特殊詐欺の検挙件数及び検挙人員を増加させる。	検挙件数(件)	4,299	3,242	↓?
	検挙人員(人)	717	1,784	↓?

- **状況**：むしろ、認知件数の増加と検挙件数の低下が指摘されるが...

例題の解答例：  
振り込め詐欺対策

# 例題の解答例： 振り込め詐欺対策

政策評価対象	例：「振り込め詐欺対策」(国家公安委員会・警察庁)
①政策評価対象特性の類型	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 課題解決・短期定量型 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 評価の実践</li> </ul> </li> </ul>
②問題(Y)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● なぜ問題の認知は拡大しているにもかかわらず、詐欺被害の拡大を抑えられないのか。</li> </ul>
③原因(X)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 技術の進歩と犯罪手法の高度化</li> </ul>
④ロジックモデル	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <u>インプット</u>: ITを活用した金融機関への新しいセキュリティ・システムの開発・導入</li> <li>● <u>活動</u>: ITを活用した金融機関への新しいセキュリティ・システムの利用促進とその利用へのインセンティブ供与</li> <li>● <u>アウトプット</u>: 金融機関における新システム利用促進度の数値増加</li> <li>● <u>アウトカム</u>: 特殊詐欺の拡大を防ぎ、被害総額を減少させる</li> </ul>
⑤阻害要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 対象組織におけるシステム導入のコスト・学習の難しさ</li> <li>● 「イタチごっこ」に陥る危険性(新たな犯罪手法の登場)</li> </ul>



# 例題の解答例： 振り込め詐欺対策

		評価対象となる政策目的の特性			
		(1) 課題解決型	(2) 社会改善型	(3) 制度管理型(制 度改善を意図)	(4) 維持・進捗管理型 (モニタリング類型)
対象を評価する手段の特性	①短期・定量	振り込め詐欺対策？			
	②短期・定性				
	③長期・定量				
	④長期・定性				

# その他の演習課題事例

# 演習課題事例2

## 「法曹養成制度の充実」の事例紹介

- 概要と目的: 高度の専門的な法律知識、幅広い教養、豊かな人間性及び職業倫理を備えた多数の法曹の養成及び確保
  - 例: 法曹有資格者の海外展開を促進する方策検討のための調査研究費を拡大する  
(H26:23百万円⇒H27:30百万円)
- 状況: どうやら、法曹有資格者の活動領域が限定されているようだが...

# 演習課題事例3

## 「国家戦略特区の推進」の事例紹介

- 概要と目的: 国家戦略特別区域法の下、規制改革等の施策を総合的かつ集中的に推進し、産業の国際競争力の強化、国際的経済活動の拠点形成を促進することにより、国民経済の発点及び国民生活の向上に寄与すること。
  - 例: 事業数の累計を拡大する  
(H27:100件⇒H31:200件)
- 状況: 「事業数の累計」を増やすとするが、これは限定的な推進にとどまる…

# 演習課題事例4

## 「電子政府・電子自治体の推進」の事例紹介

- 概要と目的: オンラインによる行政サービスの提供や自治体クラウドの推進等、ICTを活用した電子行政を推進することにより、国民の利便性向上と行政運営の合理化、効率化、透明性の向上をはかる。
  - 例: 電子政府の総合窓口(e-Gov)へのアクセス件数を増加させる(H25:261,414千件⇒H27:316,311千件)
- 状況: しかし、各自治体におけるその進展が限定的であることも指摘されるが...

# 演習課題事例5

## 「保育所の受入児童拡大と 多様化するニーズ対策」の事例紹介

- **概要と目的**: 都市部を中心に見られる保育所の容量不足と待機児童問題を対象とし、「子ども・子育てビジョン」(平成22年1月29日閣議決定)に定める保育所受入児童数の目標値等を着実に推進する。
  - **例**: 受入児童数拡大を促進する  
(H21:215万人⇒H26の目標値:246万人)
- **状況**: しかし、なかなか抜本的解決を見ないとされる待機児童問題・・・

# 演習課題事例6

## 「政策評価制度の改善」の事例紹介

- 概要と目的: 行政評価局調査、政策評価推進及び行政相談の各機能の発揮を通じて、行政機関の実施する業務の不断の見直し、質の向上、国民の行政に対する信頼の確保を図る。
  - 例: 新年度ごとに、新規に10本の評価テーマを選定し、実際に評価に着手する
- 状況: 評価対象とする新規テーマの着手数を増やすことが求められるが、その政策評価実践の現実的な難しさも指摘される・・・

\* \* \* \* \*

# 【演習課題1(例題)】以外の 演習課題解答例

\* \* \* \* \*



# 解答例2

## 法曹養成制度の充実

# 法曹養成制度の充実

		評価対象となる政策目的の特性			
		(1) 課題解決型	(2) 社会改善型	(3) 制度管理型(制 度改善を意図)	(4) 維持・進捗管理型 (モニタリング類型)
対象を評価する手段の特性	①短期・定量	振り込め詐欺対策？			
	②短期・定性				
	③長期・定量	法曹養成制度の充実			
	④長期・定性				

# 法曹養成制度の充実

政策評価対象	法曹養成制度の充実
①政策評価対象 特性の種類	<ul style="list-style-type: none"><li>● 課題解決・長期定量型<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 評価の実践</li></ul></li></ul>
②問題(問い)	<ul style="list-style-type: none"><li>● なぜ、法曹養成の成果が限定的なのか？</li></ul>
③原因(仮説)	<ul style="list-style-type: none"><li>● 拡大する有資格者数と需要と供給のミスマッチ</li><li>● 「充実した法曹」の曖昧な定義</li></ul>
④ロジックモデル	<ul style="list-style-type: none"><li>● インプット: 海外受入れ土壌の整備</li><li>● 活動: 海外受入れ先の拡大・実践</li><li>● アウトプット: 海外受入れ事業の拡大</li><li>● アウトカム: 有資格者の需給アンバランス(供給過剰)の改善</li></ul>
⑤阻害要因	<ul style="list-style-type: none"><li>● 有資格者がどこまで海外で働くインセンティブを持つか</li><li>● 法科大学院制度設計と現実との齟齬</li></ul>

# 解答例3

## 国家戦略特区の推進

# 国家戦略特区の推進

		評価対象となる政策目的の特性			
		(1) 課題解決型	(2) 社会改善型	(3) 制度管理型(制 度改善を意図)	(4) 維持・進捗管理型 (モニタリング類型)
対象を評価する手段の特性	①短期・定量	振り込め詐欺対策？			
	②短期・定性				
	③長期・定量		国家戦略特区の推進		
	④長期・定性				

# 国家戦略特区の推進

政策評価対象	国家戦略特区の推進
①政策評価対象 特性の種類	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 社会改善・長期定量型               <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 評価の実践</li> </ul> </li> </ul>
②問題(問い)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● なぜ、特区制度の導入にもかかわらず、規制緩和に伴う経済活動の発展が滞るのか？</li> </ul>
③原因(仮説)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「特殊利益」を維持する既存業界の反対</li> </ul>
④ロジックモデル	<ul style="list-style-type: none"> <li>● インプット: 特区としての指定と事業の認定</li> <li>● 活動: 特定事業領域における規制緩和の推進、税制支援</li> <li>● アウトプット: 特区認定の事業数の拡大(新規参入の促進)</li> <li>● アウトカム: 産業の国際競争力強化と地域活性化</li> </ul>
⑤阻害要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 既存業界・事業者の反対</li> <li>● 副作用としての悪徳事業者の増加</li> <li>● 逆選択の可能性</li> </ul>

## 解答例4

# 電子政府・電子自治体の推進

# 電子政府・電子自治体の推進

		評価対象となる政策目的の特性			
		(1) 課題解決型	(2) 社会改善型	(3) 制度管理型(制 度改善を意図)	(4) 維持・進捗管理型 (モニタリング類型)
対象を評価する手段の特性	①短期・定量	振り込め詐欺対策?			
	②短期・定性				
	③長期・定量			電子政府・電子自治体の推進	
	④長期・定性				



# 電子政府・電子自治体の推進

政策評価対象	電子政府・電子自治体の推進
①政策評価対象特性の類型	<ul style="list-style-type: none"><li>● 制度管理・長期定量型<ul style="list-style-type: none"><li>➤ 評価の実践</li></ul></li></ul>
②問題(問い)	<ul style="list-style-type: none"><li>● なぜ、電子政府・自治体の推進が遅いのか？</li></ul>
③原因(仮説)	<ul style="list-style-type: none"><li>● 新しいICTシステム導入に伴うコスト、システム変更のスイッチング・コスト</li></ul>
④ロジックモデル	<ul style="list-style-type: none"><li>● インプット: 政府・自治体におけるICTシステムの導入</li><li>● 活動: 政府・自治体のICTシステム活用</li><li>● アウトプット: ICTシステムを導入した自治体数の増加</li><li>● アウトカム: 効率的な行政活動の実現</li></ul>
⑤阻害要因	<ul style="list-style-type: none"><li>● 評価目的を特定することの難しさ(コストの削減? 活動の効率性? 公務員の生産性?)</li><li>● 既存の制度・システムとの齟齬</li><li>● 公務員のITリテラシー</li></ul>

# 解答例5

保育所の受入児童拡大と  
多様化するニーズ対策

# 保育所の受入児童拡大と 多様化するニーズ対策

		評価対象となる政策目的の特性			
		(1) 課題解決型	(2) 社会改善型	(3) 制度管理型(制 度改善を意図)	(4) 維持・進捗管理型 (モニタリング類型)
対象を評価する手段の特性	①短期・定量	・振り込め 詐欺対策? ・保育所の 受入れ拡大			
	②短期・定性				
	③長期・定量				
	④長期・定性				

# 保育所の受入児童拡大と 多様化するニーズ対策

政策評価対象	保育所の受入児童拡大と多様化するニーズ対策
①政策評価対象 特性の種類	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 課題解決・短期定量型               <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 評価の実践</li> </ul> </li> </ul>
②問題(問い)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● なぜ、長らく問題に対峙しているにもかかわらず、待機児童問題の解消が難しいのか？</li> </ul>
③原因(仮説)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 公共サービスのディレンマ</li> </ul>
④ロジックモデル	<ul style="list-style-type: none"> <li>● インプット: 供給量拡大のための制度改革・予算補助</li> <li>● 活動: 行政による許認可の規制緩和</li> <li>● アウトプット: 保育所の供給量の増加</li> <li>● アウトカム: 需給ミスマッチの改善による待機児童問題の解消</li> </ul>
⑤阻害要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 需要と供給のバランスの変動</li> <li>● 既存の規制維持集団の存在</li> </ul>

# 解答例6

## 政策評価制度の改善

# 政策評価制度の改善

		評価対象となる政策目的の特性			
		(1) 課題解決型	(2) 社会改善型	(3) 制度管理型(制 度改善を意図)	(4) 維持・進捗管理型 (モニタリング類型)
対象を評価する手段の特性	①短期・定量	振り込め詐欺対策?			
	②短期・定性				
	③長期・定量				
	④長期・定性			政策評価制度の 改善	

# 政策評価制度の改善

政策評価対象	政策評価制度の改善(行政評価等による行政制度・運営の改善)
① 政策評価対象特性の類型	<ul style="list-style-type: none"><li>● 長期定性・制度管理型<ul style="list-style-type: none"><li>➢ 評価の実践＋モニタリングの併用</li></ul></li></ul>
② 問題(問い)	<ul style="list-style-type: none"><li>● なぜ、政策評価制度の機能不全が指摘されるのか？</li></ul>
③ 原因(仮説)	<ul style="list-style-type: none"><li>● 政策評価対象との不適合があるのではないか</li></ul>
④ ロジックモデル	<ul style="list-style-type: none"><li>● インプット: 評価人員の拡大</li><li>● 活動: 各府省庁・自治体における評価実践と活動量増大</li><li>● アウトプット: 評価件数の増加</li><li>● アウトカム: 政策形成における意思決定の改善</li></ul>
⑤ 阻害要因	<ul style="list-style-type: none"><li>● 行政活動量の増加と組織内評価疲れ</li><li>● エビデンスの特定の難しさ</li><li>● 評価目的となる対象(制度)特性を把握することがそもそも難しい</li></ul>

全体の類型論へのあてはめ



# 対象の特性を考慮する

		評価対象となる政策目的の特性			
		(1) 課題解決型	(2) 社会改善型	(3) 制度管理型(制度 改善を意図)	(4) 維持・進捗管理型 (モニタリング類型)
対象を評価する手段の特性	①短期・定量	<ul style="list-style-type: none"> <li>詐欺対策</li> <li>保育所対策</li> </ul>	○	× 評価対象に不適合	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済統計</li> <li>栄典事務</li> <li>決算情報開示</li> </ul>
	②短期・定性	△	△	× 評価対象に不適合	○
	③長期・定量	<ul style="list-style-type: none"> <li>法曹養成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国家戦略特区</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>電子政府・自治体の推進</li> </ul>	△
	④長期・定性	× 評価対象に不適合	△	<ul style="list-style-type: none"> <li>政策評価制度</li> </ul>	△

# 対象の特性を考慮する

## ■ 類型論からの示唆

⇒ 各府省の目標管理型評価への多様な取組み姿勢を理解

### ➤ 類型にあてはまりやすい(=目標管理に馴染む)もの

- 課題解決であれ社会改善であれ、目的とする指標を定量的に把握可能なもの

### ➤ ロジックモデル構築の難しい領域

- 制度管理型の評価について、とくにこれを短期で行うことは困難。ここでは、モニタリングを併用することも一つ

### ➤ モニタリング・アプローチに馴染むもの

- インputによる変化や成果をすぐに期待できないもの
- 継続的に安定性を観察できるもの

例：経済統計、栄典事務、決算財政状況の定期的開示

# 対象の特性を考慮する

- 視点：政策評価対象特性の多様性を把握する  
⇒この多様性ごとに、適合するロジックモデルの構築は異なる。  
←逆に、評価の対象特性を考慮せずには、目標管理型評価のロジックモデル作成は困難となる可能性。

# おわりに

## ■ 評価への期待とその可能性

- 客観的「エビデンス」が活用される「ロジックモデル」を考慮することで、政府の次なる意思決定の質の改善に寄与する。
- 特に、これが効果を持つには、**評価対象となる政策領域の特性(政策評価対象特性)**を考慮することが不可欠。
  - ⇒こうした特性を分析するための試論的フレームを提供。
  - ←逆に、この特性を把握せずに「モデル」として一般化することは実際には困難。

# おわりに

- ロジックモデルと政策評価対象特性をあわせて検討することで、**そのパス実現を阻害する具体的要因**を深く分析する可能性が拓ける。
- エビデンスを重視することはもちろんのこと、それとともに、エビデンスはそれ自体「作られるもの」という視点も重要。
  - 関与する主体によりエビデンスへの態度が多様になりうることも考慮事項。
  - 近年のEBPM (Evidence-Based Policy Making) 志向を踏まえて、これを冷静に使いこなす意識・能力が求められる。

# 参考文献

- 秋吉貴雄(2017)『入門 公共政策学:社会問題を解決する「新しい知」』中央公論新社
- 秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉(2015)『公共政策学の基礎[新版]』有斐閣
- 小野達也(2018a)「ロジックモデルを用いた評価指標の設定—業績測定の実効性の向上に向けて—」『評価クォーターリー』No.46. 46-59頁。
- 小野達也(2018b)「エビデンス・ベーストな業績測定に向けて」『経済学系(関東学院大学経済学研究会研究論集)』275集。
- 総務省行政評価局(2015)『目標管理型の政策評価の点検結果』
- 高根正昭(1979)『創造の方法学』講談社
- 原田久(2016)『行政学』法律文化社
- 深谷健(2018)「目標管理型政策評価に資するロジックモデル構築の可能性—各府省庁による「政策評価の事前分析表」の比較分析—」『季刊 評価クォーターリー』 No.44, 2-18頁
- 『平成26年度実施施策に係る政策評価の事前分析表』(各府省作成)
- 『平成27年度実施施策に係る政策評価の事前分析表』(各府省作成)
- ワイス、キャロル・H(佐々木亮監修)(2014)『入門・評価学:政策・プログラム研究の方法』日本評論社